

「社会を明るくするために」

狩谷 美咲（6年）

最近、和歌山でも、犯罪が増えています。特に、不審者がいるという情報もよく聞きます。私の母もメール配信サービスを利用しているので、何か起こればすぐに情報が届き、注意することができるので、とても便利です。

また、登下校時には、ボランティアの見守り隊の人たちが交通安全や不審者などに気をつけてくれています。いつも大人たちは、子どもたちが安全、安心な町で過ごせるように努力してくれています。

そこで、私たち子どもたちも犯罪や非行を防止し、社会を明るくするために取り組みをしていく必要があります。それは、いつでも、どこでもできるあいさつです。なぜなら見守り隊の人たちが毎日、「おはよう。」と声をかけてくれるからです。朝、寝不足でしんどいときでも、「おはよう。」と声をかけてもらえるとさわやかな気持ちになるからです。

私は、児童会委員をしています。そこで、去年も行っていたあいさつ運動を、今年も引き続き行えばどうでしょうか。ただ、あいさつをしようと言っても、自ら進んであいさつをできない子もいます。だから、見守り隊の人たちのように、高学年が進んでみんなに声かけをしていくと、少しずつ返してくれる子が増えてくると思います。学校の中でもみんなが仲良くなり、つながりが持てるようになると思います。友達との関わりが広がると何かあったとき、助け合い、はげまし合えることができると思います。

大人になったときでも、近所の人たちや会社の人たちとあいさつすることで、人と人とのつながりが広がって、社会を明るくし、犯罪や非行を防げると思います。

犯罪にまきこまれないために、私達にも注意が必要です。防犯ブザーを持つ、出かけるときには、必ず行き先や帰る時間を伝えておく、一人で出歩かない、誰もいないところには、行かないようにすることです。また、何か起これば大きな声でさけんで助けを呼ぶ必要があります。注意力を持って、何かおかしいなと気づけるようにしなければなりません。また、だめなことは、はっきりと断る勇気を持たなければいけません。そして、何よりも、何かあったとき、困ったときに相談できる家族や友達がいるといいと思います。

犯罪を犯してしまった人たちは、どうやって立ち直っていけばよいのでしょうか。自分が犯した犯罪をしっかり反省した後、普通の生活に戻れるように、協力できる社会でなければいけません。一番必要なのは、自分の帰れる家です。自分のことを支えてくれる家族がいると一人ではないので、気持ちが楽になって、次からは犯罪を犯さずに幸せに新しい生活を送ることができると思います。

私は、犯罪を犯してしまった人も私たち一般の人も平等であるということを忘れないでいなければならないと思いました。

社会を明るくするためには、人と人とのつながりが一番大切だと思いました。

犯罪や非行をなくす一人一人の活動

坂東 咲希（6年）

「ずいぶん昔の話だけど」と、私のおばあちゃんが話してくれたお話です。

買い物を終え、お店から出てきたおばあちゃんが駐輪場へ歩いていると、一人の学生らしき女の子もお店から出てきたそうです。その女の子が止めていたバイクにかぎをさした時、後ろについてきていたらしい警備員のおじさんによび止められ、何やらニロ三口話をしたかと思うと、バイクにかぎをさしたまま店の中に連れていかれたそうです。女の子はとてもあわてた様子だったそうです。おばあちゃんは、すぐに何が起きたのか分からなかったそうですが、その異様な光景に、何か悪いことをしたのかなと思ったそうです。その女の子は、変わった様子もなく、ごく普通の女の子だったそうです。

私は、ごく普通の人でも悪いことをしてしまうことにおそろしさを感じました。その子に何があったのか分かりませんが、悪いことをしたのなら、心の状態が不安定になっていたのかなと思いました。いじめにあった時や成績が悪かったときなど、心の状態が不安定になるもとはたくさんあります。その不安定になるもつをなくしていくためにはどのようにすればよいか考えたところ、日ごろの両親や兄弟、友人などと話すなげない会話がとても重要ではないかと思いました。毎日様々なことを話すことで、おたがい相手のちょっとした心の変化に気付いてもらったり、また、気付いてあげたりすることができると思います。

以前、私は友達とのトラブルがあり、おちこんで家に帰りました。いつも通りに聞こえるように「ただいま」と言ったのに、お母さんは、

「今日の『ただいま』元気ないね。」

と聞いてくれたことがあります。その時、私はびっくりしました。いつも通り言ったはずの「ただいま」の一言で、お母さんは私のちょっとした心の変化に気づいたからです。それは、日頃の会話があるからだだと思います。

また、私たちが登下校の時に見守ってくれている地域のおじさんやおばさんは、暑い時も寒い時もいつも笑顔で、

「おはよう。今日は暑いね。」「お帰り。気をつけてかえってね。」

などと声をかけてくれます。初めのうちは声をかけてくれても頭を下げるだけの私でしたが、だんだん声に出して返事できるようになりました。いつでも笑顔のおじさんやおばさんをみると、なぜか気持ちが前向きになります。気持ちが前向きになるということは、心の状態が不安定ではなくなるということです。

今回例に挙げたお母さんや地域のおじさん、おばさんは人の心の変化に気づいてくれたり、気持ちを前向きにしてくれたりしました。

これは難しいことではなく、だれでもできることだと思います。色々な人と話したり、見守りではなくても、すれちがう人とあいさつを交わしたりするだけでできると思います。

これからは、このような人が増えていき犯罪や非行を犯してしまう人が減ればよいと思います。また、犯罪や非行を犯してしまった人もあいさつを交わしたりすることで、少しずつ立ち直ることができると思います。